

令和6年度第2回宮崎県総合計画審議会

・

第2回宮崎県地方創生推進懇話会

会議録

日時 令和6年8月8日（木）

15：00～16：00

場所 宮崎県庁本館 講堂

○事務局

それでは定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第2回宮崎県総合計画審議会並びに第2回宮崎県地方創生推進懇話会を開会いたします。

本日御出席の委員は13名でございまして、規定の定足数に達しておりますことを御報告いたします。

なお、大榮委員につきましては、他の皆様も御同様かと思われませんが、本日庁内で別の会議が開催されている都合上、外来駐車場に空きが無く、若干遅れるという御連絡をいただいております。また、既に御到着の皆様にも大変御不便をおかけし、申し訳ございませんでした。

本日御出席の委員の御紹介につきましては、お手元に配付の名簿に代えさせていただきます。なお、お手元の名簿のうち、九州医療科学大学の川崎委員につきましては、出席ということになってございまして、急きょ本日御欠席となりました。

また、今回初めて御出席いただく委員の方々が2名いらっしゃいますので、御紹介申し上げます。名前を呼ばれましたらその場で御起立をお願いいたします。

宮崎県林業研究グループ連絡協議会副会長の小田委員でございます。

宮崎県PTA連合会副会長の二見委員でございます。

続きまして、資料の御確認をお願いいたします。本日お配りしている資料は、次第の裏面に記載の配付資料一覧のとおりでございます。今の時点で資料に不足がある方は挙手にてお知らせください。

それでは、規定によりまして、ここからの議事は、会長が議長となって進めることになっておりますので、進行を佐藤会長をお願いいたします。

○会長

皆さんこんにちは。暑い中御苦勞様でございます。会長を仰せつかっております町村会会長の佐藤でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。

それでは、早速議事に入りたいと思いますが、議事に入ります前に私の方から会長代理と本日の会議録署名委員を指名させていただきたいと思っております。

まず、会長代理につきましては、本審議会の委員を長く務めていらっしゃる米良委員にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。

なお、本日米良様は御欠席でございますが、あらかじめ事務局から御本人の意向を確認させていただいております。

また、本日の会議録署名委員は、小田委員と二見委員にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは早速議事に入らせていただきます。

本日の議題は、お手元に配付の次第にありますとおり、「アクションプランに基づく令和5年度取組に係る政策評価について」でございます。

政策評価の基準や実施方法、内部評価の内容につきましては、前回の審議会資料のとおりでありまして、委員の皆様には、この内部評価等を参考に、社会情勢による影響等を踏まえまして、各委員個人としての外部評価を御提出いただいたところであります。

本日は当審議会として、各プログラムの最終的な外部評価を決定していくこととなります。限られた時間でございますので、円滑な進行に御協力をお願いいたします。それでは事務局より、資料の説明をお願いいたします。

○総合政策課長

それでは、私の方から説明させていただきます。

お手元の資料1から資料4までをまとめて説明させていただきます。

まず、資料1を御覧ください。「プログラム総括表」ということで、皆様からいただいた評価をそのまま一覧表にしたものでございます。色が濃くなっているところが委員の皆様の御意見が多かった評価であり、仮置きという形で表の右側に外部評価を記載しております。

次に、資料2を御覧ください。前回の審議会の際には実績値が確定しておらず、その後実績値が確定した指標が2つございます。この確定に伴いまして、プログラムIV及びプログラムVの内部評価が、資料の一番右側のように確定しております。

続きまして、資料3を御覧ください。こちらには、委員の皆様からいただいた主な御意見をまとめております。詳細な説明は省略させていただきますが、各委員の御意見につきましては、答申案に反映させていただいております。

続きまして、資料4を御覧ください。政策評価答申案について御説明いたします。

まず、1ページの政策評価の概要として、評価の趣旨や評価の方法を記載しております。次に、2ページから3ページにかけて、評価結果の一覧表を示しております。4ページを御覧ください。ここから個別にプログラムの評価を記載しておりますので、少々お時間をいただき、内容を説明させていただきます。

まず、プログラムI「コロナ禍・物価高騰等からの宮崎再生」でございます。プログラムIの外部評価につきましては、資料の左上に点線囲みで記載しておりますが、A評価とされた方が1名、B評価とされた方が12名、C評価とされた方が7名となっております。

り、これを踏まえまして、Bという仮の評価にしております。内部評価については、資料左下に記載のとおりです。

右上指標の状況としましては、「観光入込客数」などの観光関連指標等は、概ね順調に推移しており、社会経済活動は回復傾向にあります。一方で、「中山間地域における常勤医師充足率」などの医療関連の指標等は、基準値又は目安値を下回っております。

このような指標の状況や取組結果を踏まえ、成果と課題としましては、地域医療・福祉の充実に向けて、新興感染症への対応力の強化やデジタル化の推進等によるへき地医療の体制維持等に取り組むとともに、就労環境の整備等を通じた医療・福祉人材の育成・確保と定着促進を図る必要があると考えております。また、県民生活・地域経済の早期回復に向けては、困難を抱える人の実態把握に努め、支援を一層充実させるとともに、相談体制の充実や自殺対策に加え、これらを支える人材の育成が求められるところがあります。観光面では、スポーツキャンプ誘致体制の強化やスポーツツーリズムの推進などを戦略的に進めるとともに、インバウンド誘客の強化や、5Sを生かした観光振興等を進める必要がございます。

以上を踏まえた総括評価として、右下に記載のとおり整理したところであります。5ページからは、前回の審議会で説明した内容と同様となっておりますので割愛させていただきます、8ページをお開きください。

続きまして、プログラムⅡ「希望ある未来への飛躍に向けた基盤づくり」でございます。外部評価につきましては、A評価が4名、B評価が13名、C評価が3名となっております、これを踏まえましてBという仮の評価にしております。内部評価については、資料左下に記載のとおりです。

指標の状況としましては、フェリー・空港などの交通・物流関連の指標や災害に強い県づくりに関連する指標は、概ね順調に推移しております。一方で、バス・鉄道の利用者数や「災害に対する備えをしている人の割合」などについては、基準値を下回るものもございました。

次に成果と課題ですが、Ma a Sの拡大等によるスマートシティの推進やデジタル技術の活用による地理的な制約を克服した学習環境づくりなど、引き続き希望ある未来への挑戦が求められております。交通・物流ネットワークについては、基盤整備は着実に進んでいるものの、広域路線バス等の公共交通機関の需要回復や利便性向上、運行の最適化などに引き続き取り組む必要があります。防災面では、災害に強い県土・まちづくりは着実に進んでいるものの、学校・地域等と連携した防災教育の推進等による防災意識の向上や、地域防災の中核的人材等の育成・確保などの取組の強化が求められるところです。

以上を踏まえた総括評価として、右下に記載のとおり整理したところであります。

続きまして、12 ページのプログラムⅢ『みやざき』の未来を創る人材の育成・活躍』でございます。外部評価につきましては、A評価が1名、B評価が9名、C評価が10名となっており、これを踏まえてCという仮の評価としております。内部評価については、資料左下に記載のとおりです。

指標の状況としては、「病児保育事業実施施設数」や「育児休業取得率」などは順調に推移しているものの、「合計特殊出生率」のほか、子どもの学力や人権に関連する指標など、基準値を下回るものも多くございました。

次に成果と課題ですが、合計特殊出生率や出生数が大きく低下・減少する中、子どもを生き育てやすい県づくりに向けて、出逢い・結婚支援の強化や共働き・共育での推進等に加え、本県の実態を踏まえた自然減・社会減対策の更なる強化を図る必要があります。教育面では、基礎的な学力・体力の向上はもとより、デジタル活用能力や主体性を育む教育とともに、キャリア教育の更なる充実などに取り組む必要があります。また、共感・共生社会づくりでは、人権尊重や男女平等などの意識向上を図るとともに、誰もが働きやすい職場づくりや障がい者の就業支援などの取組をより一層推進する必要があります。さらに、県民誰もがスポーツや文化活動等に取り組むことができる環境を充実させるほか、国スポ・障スポ大会を見据え、競技力向上に向けた取組が求められるところではあります。

以上を踏まえた総括評価として、右下に記載のとおり整理したところであります。

続きまして、17 ページのプログラムⅣ「社会減ゼロへの挑戦」でございます。外部評価につきましては、B評価が12名、C評価が8名となっており、これを踏まえてBという仮の評価としております。内部評価については、資料左下に記載のとおりです。

指標の状況としては、「社会動態」や「県内大学等新卒者の県内就職割合」など主要な項目で基準値を下回るなど厳しい状況となっております。一方、「移住施策による移住世帯数」や「自治体施策を通じたワーケーション受入数」など目安値を上回っている項目もございます。

次に成果と課題ですが、若者・女性の県内就業・県内定着に向けては、官民連携による企業とのマッチングの強化とともに、処遇改善や多様な働き方の推進など、若者や女性にとって魅力的な雇用の創出が求められるところではあります。また、県外からの移住の促進に向けて、ワーケーション推進等は進んでいるものの、U I J ターン就職希望者の就業支援の強化や、受入環境・フォローアップ体制等の充実による移住・定着促進に加え、交流・関係人口の拡大に向けた取組を一層強化する必要があります。持続可能な地域づくりについては、交通安全対策や防犯対策の一層の強化や、中山間地域の暮らしに必要な

な機能やサービスの維持、省エネ・再エネ導入や、再造林・循環型農林水産業の推進など継続的な取組が必要であります。

以上のことから、総括評価としては、右下に記載のとおり整理しておりますが、少子化・人口減少が加速する中、移住世帯数など一時的に成果の出ている項目はあるものの、社会動態や若者の県内就職など、基準値を下回るほど厳しい状況等も踏まえますと、社会減ゼロへの挑戦としては、山積する課題に対し、強い危機感を持ってこれまで以上の取組を進める必要があると考えております。

最後に、22 ページのプログラムV「力強い産業の創出・地域経済の活性化」でございます。外部評価につきましては、B評価が15名、C評価が5名となっております、これを踏まえてBという仮の評価としております。内部評価については、資料左下に記載のとおりです。

指標の状況としては、「プロ人材と県内企業とのマッチング成約数」など、産業人材の確保・育成に関連する指標は概ね順調に推移しております。また、「1人当たりの労働生産性」などの指標については、新型コロナの影響により基準値を下回ったものの、農業・林業の産出額や輸出額については、目安値を達成しております。

次に成果と課題ですが、多様な人材の確保・育成に向けて、リスクリングや技術者・デジタル人材の育成、県内就職への仕組みづくり、外国人材の受入れ・定着促進など、取組の強化が急がれます。また、フードビジネスの更なる振興や県内企業の海外展開・販路拡大の支援に加え、産業のデジタル化や脱炭素経営の推進による企業成長、半導体等の先端産業などの新たな成長産業の育成等が求められるところです。さらに、農林水産業においては、関係団体等と連携した担い手の確保に取り組むとともに、スマート農林水産業や循環型農業の推進、国内外への販路拡大・販売力の向上を図る必要があります。

以上を踏まえた総括評価として、右下に記載のとおり整理したところであります。

事務局からの説明は以上でございます。

○会長

ありがとうございました。それではただいまから審議に入りたいと思います。

最初にプログラムI「コロナ禍・物価高騰等からの宮崎再生」についてであります。

4ページ左上にあります、外部評価（仮）を御覧いただきたいと思います。

点線の四角で囲んでおります委員の皆様の評価結果ですが、Aが1名、Bが12名、Cが7名となっております、B評価が最も多い状況となっております。

こちらにつきまして、何か異論あるいはコメント等がございましたらお願いしたいと

と思いますが、いかがでしょうか。

特に無ければ、Bということで進めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。それではプログラムⅠにつきましては、Bという外部評価で進めさせていただきます。

続きまして、プログラムⅡ「希望ある未来への飛躍に向けた基盤づくり」についてであります。

8ページを御覧いただきたいと思います。

Aが4名、Bが13名で、Cが3名となっており、こちらも多くの委員がBと評価されているところであります。

こちらにつきまして、何か異論あるいはコメント等がございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

では、黒木委員どうぞ。

○黒木委員

「成果と課題」の3番目に記載されている防災の部分についての意見です。

資料3「委員からの主な御意見について」も拝見させていただき、多くの委員が防災分野に関する御意見を出されていると感じました。

その意見を反映させた答申案ということなのですが、もう少し具体的な表現が欲しかったと考えます。アクションプランなので、詳細な部分までの記述は難しいのかもしれませんが、災害が発生する前にやっておくべきこと、災害が発生した後にやるべきこと、もちろん防災はフェーズフリーなので、そこは連携するのですが、もう少し課題の見方などを整理されると更に良くなると思います。以上です。

○会長

ありがとうございます。御意見として頂戴させていただきます。事務局におかれましては、そのような意見がございましたので、よろしくお願いいいたします。

その他ございませんでしょうか。他に御意見等も無いようでしたら、Bということで進めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。プログラムⅡにつきましては、Bという外部評価で進めさせていただきます。

続きましてプログラムⅢ「『みやざき』の未来を創る人材の育成・活躍」についてであります。

12 ページを御覧いただきたいと思います。

Aが1名、Bが9名、Cが10名となっておりますが、CがわずかにBを上回っていますが、拮抗している状況でございます。

事務局案では最も多くの委員が評価されたCとなっておりますが、何か御異論あるいはコメント等がございましたら、ぜひお願いしたいと思います。

では、鮫島委員どうぞ。

○鮫島委員

プログラムⅣで発言しようと思っていたのですが、プログラムⅢも同じような観点があろうかと思しますので、意見を出させていただきます。

この資料1の評価だけ見ますと、大きく2つに分けて「良い」と評価されている方が10名、「悪い」と評価されている方が10名いらっしゃる、統計学的には、Aが1名いらっしゃる分、どちらかと言えば、「良い」に傾いております。

しかし、そもそもこの外部評価の目的は何かというところで、資料4の1ページに記載されておりますが、①県民にわかりやすく示す、②課題を明らかにし、後年度の予算や施策への反映を通じて、改善につなげることです。

これを考えたとき、単に「できている」と評価するよりも、次の施策、足りない点、あるいは予算の重点的な配分といった観点からすれば、C評価が半分もいるということは非常に大きいのではないかと感じます。

また、内部評価でも悪い指標が多くあったように思います。

こういったことを踏まえると、Cの「一部に成果が上がっていない」というところに強く焦点を置いた方が良いのではないかと思いました。以上でございます。

○会長

はい、ありがとうございました。

先を見据えた課題等も含めて、改善していくことを強く意識していただきたいという御意見だったと思います。

その他、委員の方からないでしょうか。今回初めて御出席の小田委員や二見委員、前回御欠席の渡邊委員、何か御意見があれば大変ありがたいのですが、いかがでしょうか。

では、小田委員お願いします。

○小田委員

評価する際、どこに注目するのが大事だと思っております。

宮崎県は生み育てやすい分、移住・定住の取組を進めやすいのですが、育てていくと、やはり高校生あたりから、都会の方に出ていってしまう傾向にあるので、それを評価するとどうしてもCになってしまいます。

ただ、生み育てるには宮崎が良いと言って、わざわざ御夫婦だったり、結婚する前の方々だったり、宮崎に来てくれる若者は非常に多いのが実感、体感としてあります。

そのあたりのことも踏まえ、やはり本県が足りない部分でいうと、高校への進学あたりからの費用負担の軽減を含めた教育支援施策の強化ではないかと思っておりますので、ぜひ県には考えて欲しいと思います。よろしく申し上げます。

○会長

ありがとうございました。他にございませんでしょうか。

では、渡邊委員をお願いします。

○渡邊委員

私、子どもがおりませんので、自分としては非常に距離があるところなのですが、実は今回の評価の中で、私もここだけCとさせていただきます。

それは、期待も込めてというところなのですが、先ほど鮫島委員もおっしゃったとおり、プログラムⅣとも関わりのある重要なところですよ。

魅力ある企業、なかなか我々も達成できていないところがあるのですが、やはりそこに力を入れていかないと、宮崎県の未来はないだろうという、期待含めての喝ということで、私はCが妥当ではないのかなと思います。

○会長

ありがとうございます。他にございますか。

では、二見委員どうぞ。

○二見委員

合計特殊出生率のところですが、令和8年度に1.8を目指していらっしゃるということで、おそらくこれはかなり難しいのではないかと思っているのですが、下方修正等は検討されないのでしょうか。

また、子育て支援というところで、子育てしやすい現状は私もすごく感じているので

すが、一方でニーズがすごく幅広くなっているのを感じているところです。

10年前や20年前と比べて、すごく細やかに対応するようになったからこそ、もっとああして欲しい、こうして欲しいという思いも生まれ、ニーズの多様化に至ったものと考えられます。

先ほど小田委員より、高校生ぐらいから外に出ていくというお話がありましたが、増えることをすごく期待したい一方で、現実問題として難しいとも思っており、本当に目指すべきところがどこなのかをもう少し考えた方がいいと思いました。私もずっと子育て支援の世界におりますので、このギャップがどんどん離れていくのを、すごくもどかしく見ているところです。以上、意見となります。

○総合政策課長

御意見ありがとうございます。

まず、合計特殊出生率の目標 1.8 について、下方修正は検討されないのかというお話がございました。

御指摘のとおり、基準値が令和4年で1.63だったものが、令和5年で1.49ということで基準値を下回る結果になりまして、私どももこの少子化の進行速度に非常に衝撃を受けていると同時に、危機感を強めているところです。

このままで本当に令和8年度に1.8を達成できるのかという懸念をお持ちになるのも、致し方ないところだと思います。

ただ今年度から、県の合計特殊出生率の更なる上昇を目指す「日本一挑戦プロジェクト」を本格的に展開しておりまして、あらゆる政策を打ち出しながら、子育て環境の充実であるとか、出逢い・結婚の支援といった取組をこれから進めていくところでございますので、目標達成に向けて引き続き努力してまいりたいと考えております。

また、人口減少が進む中で、これを反転させるのは非常に難しいのではないかと御指摘も本当におっしゃるとおりだと思います。少子化も当然進むのですが、現在の人口構造上、高齢者が非常に多い逆ピラミッドの状態になっている中、人口減少が進んでいくということは避けられないと考えております。そのような中、県としましては、できるだけ人口減少のスピードを緩やかにしていく、そして、人口が少なくなった中でも、一人ひとりが豊かで、幸せな暮らしを続けられるような持続的な地域づくりに向けてしっかり取り組んでいくことが重要と考えております。社会のあり方であるとか、仕組みだとかそういったものを少しずつ変えていかないといけない、その人口の規模に合った形に変えていかないといけない、そのための時間が必要だと思います。急には変えられませんので、そのために、人口減少のスピードを緩やかにしていくという努力が必要だ

と考えております。

○会長

ありがとうございます。多くの委員の方々から御意見をいただきました。

私自身、皆様のお話を聞いていると、やはりこういうアクションプランの外部評価というのは、単に良かっただけではなくて、次に向かってのステップとして、いろいろな御意見をいただきながら、それをもとに宮崎県が進んでいくというようなことが大きなウエイトを占めるのかなと思いました。評価区分では、Aは「成果が出ている」、Bは「一定の成果が出ている」、Cは「策定時より改善しているが、一部に成果が上がっていない項目がある」、Dは「成果があまり上がっていない」となっておりまして、今までの御意見などをお聞きしますと、最終的な評価としましては、Cと評価するのが妥当なのかなというふうに判断をしたところですが、このことについて、皆さんいかがでしょうか。Cでよろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。それではプログラムⅢにつきましては、Cという外部評価で進めさせていただきたいと思えます。

続きましてプログラムⅣ「社会減ゼロへの挑戦」についてです。

17 ページを御覧いただきたいと思えます。

Bが12名、Cが8名で、B評価が最も多い状況となっております。

こちらにつきましても、少しお時間を取って議論したいと思えますので、皆様からの御意見等をいただきたいと思えます。

では、鮫島委員お願いいたします。

○鮫島委員

Cが8名もいるということをおおきく捉えないといけな思えます。

また、先ほど総合政策課長も強い危機意識を持っていると言われましたけれども、やはり県としてもそのように考えているということです。

「一定の成果が出ている」というB評価がポンと出てくるというのは、僕は危機感が足りないように思えます。

ですから、後の施策に反映させるため、これをもしB評価とするならば、注記が必要で、一番多いのはBではあったけれども、危機感を持ち、かなりできていない部分があるとすべきだと思えます。もしくは、ここで皆さんの意思決定の中でこれはCにすべきであるとするのか、どちらかではないかという気がいたします。以上です。

○会長

貴重な御意見、ありがとうございます。

その他、委員の皆様から御意見をいただければありがたいと思いますが、いかがでしょうか。

では、総合政策部長よりお願いいたします。

○総合政策部長

「社会減ゼロへの挑戦」ということでプログラムⅣに掲げさせていただいておりますが、B評価が12名もいらっしやったことについては、大変ありがたく思っております。

多くの達成できていない指標がある中、委員の方々には、その達成に向けた我々の姿勢や努力も評価していただいて、Bという評価を多くいただけたところもあるのではないかと考えたところでございます。

ただ、冒頭で課長の方からも説明しましたように、この社会減ゼロというのは、アクションプランに掲げた大きな目標でございまして、移住やワーケーション等は非常にうまく施策として機能しているのかなと思っております。

しかし、私の立場から見ると、移住にしてもワーケーションにしても、まだ県内全体の面的な広がりというところでは、十分でない部分があると思っております。一生懸命頑張っている特定の地域、自治体の努力に依存しているところが大きいので、もっと広げていく必要があると考えております。

また、中山間地域でやっている特定地域づくり組合や移住の関係、こちらも成果としては一定のものが出ていると思っておりますが、まだまだ数的には少なく、これも更に進めていかなければならないと思っております。

いずれにいたしましても、「社会減ゼロへの挑戦」という目標を掲げ、先ほどのプログラムⅢとも関係するのですが、県全体の人口減少のスピードをいかに緩やかにしていくかというのが大きな目標でございます。

ちなみに、昨年生まれた子どもの数は6千数百人でして、大体7千人弱というところでございますので、7千人の子どもさんが、80年間ずっと生まれ続ければ、社会減ゼロを達成しても、単純計算で56万人の県になるということでございます。県としてそこを何十万にするという目標は今のところ立てておりませんが、人口が減っていくスピードを緩めながら、その間に人口減少社会にアジャストできるよう、いろいろな仕組みを整えていく時間を稼いでいきたいというところでございます。そういった意味で、まずは社会減ゼロを達成していきたいと考えていますが、現状は目安値の804人減に対し

て、実際は1,165人減というところでございまして、合計特殊出生率は下がり、社会減も更に増えたということで、非常に大きな危機感を持ち、今後の対策を進めていきたいと考えております。

○会長

ありがとうございました。

会長があまり意見を出してはいけないと承知していますが、このプログラムⅣについては、私も自治体の首長として、特に中山間地域でまさに人口減少対策には一番危機感を持って動いているところでありますから、申し上げますと、Bではないだろうと感じておりました。まだまだやらないといけないことがあるだろうと思っております。

先ほど部長の方からお話がございましたとおり、ある一部の自治体においては、本当に御努力をされて、取組が進んでいるわけですが、県内全体、特に中山間地域などにおいては、まだまだ十分ではないところがございます。

それを部長がおっしゃったように、どうやって今後広げていくのか、そういうトータル面から考慮すると、BではなくCとして、もっと県全体で頑張っていく必要があると感じたところであります。

中山間地域の町長として言わないといけないという思いできたところでありますが、県として、各地域がどうやってこの重要な課題を解決していくのか、しっかりと整備していくことが大事なのかなと思ったところです。これはあくまでも一委員としての意見です。その他、皆様方から御意見はなかったでしょうか。

では、大榮委員をお願いします。

○大榮委員

若者・女性の県内定着ということで、たぶん企業に就職するということを念頭に置かれているような気がするのですが、やはり宮崎県は一次産業が主な産業ですので、そのあたりへの誘導、仕掛けづくりをうまくする必要がありますと思います。プログラムⅤにおける、高齢化でなかなか一次産業への就業人口が増えてこないという部分ともうまくつながっていかないかなと考えた次第です。

私、宮崎大学で男女共同参画室の副室長をしているのですが、委員の方が今年、アイスランドを訪問しまして、アイスランドは一次産業が主要な産業らしく、そこに結構な女性の方が就業しているというお話を聞きました。宮崎日日新聞にも記事が載っていたのですが、やはり宮崎県だけではなく、海外のいろんな諸外国にも目を配ると、何か打開策として参考になるところがあるのではないかと思います。

またもう一点、やはり県内のお子さんたちが高校、大学と宮崎県内で進学していただいて、そのまま宮崎県に就職していただく、残っていただくというのが理想ですので、そういうことを踏まえて、小学校の頃から宮崎県に愛着を持てるような、宮崎県で何かしたいと意欲をかき立てるような教育がプラスアルファとしてあるといいなと考えました。以上です。

○総合政策部長

御意見ありがとうございます。

1点目の農林水産業のお話、大変重要な視点だと思っております。

このプログラムIVでは社会減のお話をさせていただいておりますが、この社会減対策は、ここに掲げている施策だけで実現できるものではなく、プログラムVも含めた県全体の政策を結集していくことで、この人口の問題も解決できるのではないかと考えております。

そういった中で農林水産業については、我が県にとって大変ポテンシャルのある産業でございます。特に林業は、御承知のとおり今年から再造林率の日本一を目指す「グリーン成長プロジェクト」を本格展開しております。林業に携わる方々の処遇改善も含めて、しっかり人材を確保していこうと取組を進めております。

他の農業、水産業も同じでございますが、様々な関係機関と連携し、そこに若い人たちが残るような形、あるいは外部から来るような形で、しっかり進めていこうと思っております。

そういったことも含め、委員のおっしゃるとおり、小さいうちから、県内にこういう産業があると知ってもらおうということが大変重要でございますので、そういった視点からも引き続き施策を作っていくしたいと思います。

○会長

ありがとうございます。その他なかったでしょうか。

では、小田委員どうぞ。

○小田委員

出生率が全国2位ということで、宮崎県は希望が持てる一方、やはり高校や大学へ進学となると出ていってしまう方が多いのはもったいないと感じています。

移住されてこられた方は、身が軽いと言いますか、簡単に出て行かれます。どこであっても、その時期に住んでいる場所で生計を立て、出て行った先の方が便利だというこ

とで戻ってこなかったりするような事例も多いので、本当に宮崎はもったいないと思います。宮崎で産まれた子牛が将来は松阪牛になったりするように、良いところを持っていかれるなというイメージがあります。

出生率を伸ばしていくのであれば、やはり医療や教育が課題になってくると思われますので、何かしらの取組をできないのかなというところは常々思っております。

また林業関係について、「グリーン成長プロジェクト」では再造林率の日本一を掲げているのですが、宮崎県はスギの素材生産量が日本一となっており、これは33年連続の日本一です。

キャンプ地に来る各選手団の方はやはり日本一を目指していると思うので、せっかくだからそこをつなげて、日本一と関連付けてできる取組を行って欲しいと思います。

市町村、スポーツチームどちらもパフォーマンス的に良いと思います。スポーツチームも植林などをはじめとした何かしらの取組を行うことで、貢献することでPRになりますし、自治体としても33年連続日本一を更新していることをアピールできますので、日本一をうまくつなげられないかと考えます。

ぜひもっと頑張ってもらいたいということもあって、ここはCじゃないかと思えます。

○会長

ありがとうございます。その他御意見はなかったでしょうか。

では、渡邊委員をお願いします。

○渡邊委員

雇用の部分については、我がグループで2,500人ぐらい社員がおりまして、受け皿になりたいという思いを持っております。

コロナ禍が終わって少しずつ賃金が上がったり、処遇が改善されたりしてきていますが、うちの会社に魅力がないということもあってか、なかなか思ったように採用できていないのが現状です。

行き着くところは、若者・女性にとって魅力的な雇用の創出が求められるということであり、官民一体となって、具体的に努力していかなければならない話だと考えます。直接の雇用の話だけではなく、宮崎は楽しいとか、便利だとか、魅力的だとか、会社の処遇的なものだけではなく、宮崎に住むことがプラスであるというところのアピールをしていく必要があると思います。

宮崎全体の質を総合的に上げていかないと、こういった課題や問題は解決しないのではないかと思っております。以上です。

○会長

ありがとうございます。いろいろと委員の方々から御意見をいただきました。

当初、皆様からいただいた外部評価ではBという評価が多いようではありますが、御意見を聞く中においては、やはり私を含めて、まだまだ不十分な部分が多くあるプログラムかなと感じました。さらに一步頑張ってもらいたい、頑張ってもらいたいという意味も込めて、Cということで、委員の皆様にお諮りしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

では審議会としては、評価をCとさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

最後になりますけれども、プログラムV「力強い産業の創出・地域経済の活性化」についてであります。

22 ページを御覧いただきたいと思います。

B評価が 15 名、C評価が 5 名となっており、多くの委員がBと評価されているところです。

こちらにつきまして、何か御異論あるいはコメント等がございましたら、お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

特に無ければ、Bということで進めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。それではプログラムVにつきましては、Bという外部評価で進めさせていただきます。

それでは、アクションプランに基づく令和5年度取組についての各プログラムの最終的な評価につきましては、プログラムⅠはB、プログラムⅡはB、プログラムⅢはC、プログラムⅣはC、プログラムⅤはBということでよろしいでしょうか。

(異議なし)

では、そのように決定したいと思います。

ただいまの政策評価の答申につきましては、皆様から本日いただきました御意見等も踏まえまして、最終的に私と事務局でまとめさせていただきたいと思いますが、御一任いただけますでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。それでは8月19日の知事への答申に向けまして、私と事務局で作業を進めさせていただきます。

以上で本日の議事は全て終了いたしました。円滑な進行への御協力ありがとうございました。それでは進行を事務局へお返しいたします。

○事務局

熱心な御議論、ありがとうございました。

審議会につきましては、今年度は本日が最後の予定となっております。

来年度以降につきましては、また追って連絡をさせていただきたいと存じますので、よろしく願いいたします。

最後になりますが、机上に配付しております2つの冊子につきましては、来年度の審議会でも使用いたしますので、そのまま置いて帰っていただいて結構でございます。

また本日は、外来駐車場につきまして大変御不便をおかけし、重ねてお詫び申し上げます。外来駐車場をお使いの方で、まだ駐車券にスタンプをもらっていない方がいらっしゃいましたら、スタッフの方へお声がけください。

それでは、以上をもちまして会議を全て終了いたします。

本日はどうもありがとうございました。